

# 若者サポートステーション事業 実施報告書

令和5年3月31日

NPO 法人すこやかいきいき協議会

令和3年度（補正予算）独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

## 事業実施の背景

NPO 法人すこやかいきいき協議会の支え合いの地域づくりの活動の一環として、2020年5月に神奈川県内の大学生による「かながわ学生ボランティア連合」を立ち上げ、2020年7月から、生活に困窮する学生に月2回の食料送付活動を学生主体で行っています。

令和4年3月の時点で関わる学生ボランティアメンバーが12大学に通う35名となり、そのメンバーが中心で食料送付活動をしており、サポートを受けている学生は8名となっていました。

新型コロナウイルス感染拡大後様々な支援策が行われていますが、学生への給付は単発の支援のみで、以後継続的な支援政策が打ち出されておらず、生活に困窮し学業を断念するかしないか瀬戸際の学生が厳しい生活をしていました。

学生向けの食料配布会なども複数回企画しましたが、そこに取りに来ることができない学生がおり、食料送付活動を寄付及び助成金を受けて実施続けてきました。

一方、支援を受け無事に卒業をした学生も多く、必要なサポートがあれば学業が継続でき卒業までできることもわかりました。

行政の施策としては、学生への給付金などがありましたが、継続的な支援とはなっていません。

他団体の取組みとしては、フードバンクや各地域の社会福祉協議会などが食料支援活動をしています。学生とのつながりが作りづらく、橋渡しをする役割が必要です。

また学校（大学・専門学校）については、個人情報保護の観点から、困窮学生と地域社会資源をつなぐことがなかなかできなく、また学校自体もオンライン中心の授業に切り替わっていることで、困窮学生の把握と支援がしづらい環境となっており、困窮学生は新型コロナウイルス感染拡大でアルバイトが減少し、親からの仕送りが少なくなり、厳しい生活を余儀なくしています。

このような状況から、サポートが必要な困窮学生とつながり、継続的な支援活動を行うことが重要と考えました。

以上のことから新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えない中、引き続き厳しい生活をする学生の支援が必要と考え、事業を企画しました。

## 若者サポートステーション事業の企画内容

生活に困窮する学生を支援することを目的に、月に 2 回の食料配布・年数回の食料配布会・ミニフードバンクの運営を行っての食料支援活動と、孤立防止のためのボランティア活動や仲間づくりの場などのあっせんを行う学生ボランティアセンター事業を企画しました。

### <企画時の内容>

#### 1, 食料送付サポート事業

- ①目的：生活に困窮する学生に、食料のサポートを行い、学業の継続を支援するもの。
- ②内容：月 2 回生活困窮学生に食料を配布する。3 カ月ごとの期間×4 回とし、1 期間 10 名を上限に支援する。
- ③実施場所：逗子市の空き家に拠点を設置予定
- ④実施期間・日時：3 カ月ごとの期間×4 回、毎月 1 日・15 日に食料送付

#### 2, 食料配布会

- ①目的：生活に困窮する学生に、食料のサポートを行い、学業の継続を支援するもの。
- ②内容：年 4 回、生活困窮学生向けの食料配布会を行う。
- ③実施場所：逗子市文化プラザ市民交流センター、いきいきセンター金沢
- ④実施期間：5 月、8 月、11 月、2 月

#### 3、ミニフードバンク

- ①目的：生活に困窮する学生にサポートを行うための、小規模のフードバンクを行うもの。
- ②内容：年間を通じて食料を募集し、学生に配布する食料をストックする。
- ③実施場所：逗子市の空き家に拠点を設置予定。
- ④実施期間：1 年間

#### 4, 学生ボランティアセンター

- ①目的：学生の孤立を防止するためにボランティア活動をあっせん・調整し、仲間づくりを進めるもの。
- ②内容：年間を通して学生が参加できるボランティア活動をあっせん・調整する。
- ③実施場所：逗子市の空き家に拠点を設置予定
- ④実施期間・日時：1 年間

## 1 年間の実施概要（2022年4月1日～2023年3月31日）

### 1、食料送付サポート事業

・生活に困窮する学生に、食料のサポートを行い、学業の継続を支援実施するための活動です。フードバンクかながわ、神奈川フードバンクプラスの協力、また食料寄付活動でいただいた食料で実施しました。

・4/1・4/15・5/1まで、3人の学生に食料送付。

※助成決定後に5/15以降分募集。

以前から支援をしていた学生3人に継続支援。

・5/15・6/1・6/15・7/1・7/15・8/1、

10人の学生に食料送付。

※継続学生と新規募集学生10人で実施。

アンケートも実施

男性6名 女性4名

アルバイトができない縮小された 9名

学業が継続できない 1名

孤立している感覚がある 5名

生活費が厳しい 10名

・9/1、10/1、11/1、7人の学生に食料送付。

※アルバイト等が増えてきたことにより3人卒業。

月2回の送付を、月1回として食料の量を増やして送付を実施。

アンケート実施

男性3名 女性4名

アルバイトができない縮小された 7名

学業が継続できない 0名

孤立している感覚がある 2名

生活費が厳しい 7名

・12/1、1/1、2/1、3/1、4人の学生に食料送付。

※支援希望者募集を出したが対象者来ず、4人に支援継続。

アンケートも実施



空き家拠点で食料の仕分け



この一箱ずつ学生に送付



フードバンクでも食料をいただきます

男性 2 名 女性 2 名  
アルバイトができない縮小された 4 名  
学業が継続できない 0 名  
孤立している感覚がある 0 名  
生活費が厳しい 4 名



神奈川フードバンクプラス前

#### 食料送付サポート事業を通じて（考察）

2 年前より続けてきた活動で、今年度変化を感じました。新型コロナウイルスの感染は広がっているものの、社会で免疫ができ、少しずつ学生を取り巻く現状が回復してきたと感じる 1 年であったのが一番の変化です。アルバイトのシフトに入れるようになってきたのが一番の変化です。また一人暮らし学生への仕送りも回復してきたとお声もありました。

当初多くの方に食料をお送りすることは、メンバーの連携が必要でとても大変でしたが、後半はサポートを卒業する人も多く、感謝の声もいただいて嬉しかったです。

大学 3 年生メンバー

## 2、食料配布会

・生活に困窮する学生に、食料のサポートを行い、学業の継続を支援するため行いました。

・8 月 25 日 28 日に、神奈川フードバンクプラスの食料配布会を合同で実施。

・12 月 27 日に、「一人暮らし学生向け 年末だよ！  
年越し食料プロジェクト」の名称での食料配布会を実施。  
計 19 人の一人暮らし学生を支援。

アンケートも実施

男性 12 名 女性 7 名  
アルバイトができない縮小された 7 名  
学業が継続できない 1 名  
孤立している感覚がある 2 名  
生活費が厳しい 7 名



年末の食料配布会

- ・2月5日に、「一人暮らし学生向け ご飯たくさん差し上げますプロジェクト」の名称での食料配布会を実施。

計42人の一人暮らし学生を支援。

アンケートも実施

男性17名 女性20名 答えたくない2枚

アルバイトができない縮小された 11名

学業が継続できない 1名

孤立している感覚がある 2名

生活費が厳しい 20名



2月の食料配布会

#### 食料配布会を通じて（考察）

計2回の食料配布会を通して感じたことは、困っているかどうかは見た目では判断が難しい、ということでした。受付をしていましたが、普段学校にいる皆さんの中で、本当は生活が厳しいということをはなかなか出せない現状があることを思い、できるだけ普通にふるまうようにしていました。配布後に「本当に助かります」と何人かに話をもらったのがとても印象的でした。社会の支援の仕組みも足りないし、ましてや見えづらい困っている学生への支援はもっと足りないと感じました。

大学2年生メンバー

### 3、ミニフードバンク

- ・生活に困窮する学生にサポートを行うための小規模のフードバンクを実施しました。

- ・4月に空き家拠点の1室で設置。寄付をいただいた食料を保管し、定期的な困窮学生への食糧支援の際にその食料を送付。



空き家拠点ミニフードバンク

- ・食料の寄付を募るお米一合運動を、13回実施。寄付をいただいた食料を学生に送り、必要保管分を除いた余剰分をフードバンクや返子の子ども食堂に寄付を行った。

実施：6月5日、6月11日、7月17日、8月14日、9月4日、9月24日、10月27日、11月20日、12月18日、12月26日、1月28日、2月25日、3月26日

寄付されたお米：1,236 kg



スズキヤ逗子駅前店での活動



逗子市長も応援いただきました



1回で集まる量はこの程度



ハロウィンでも活動しました

#### ミニフードバンク活動を通して（考察）

お米一合運動で、こんなにも多くの方が食料を寄付してくれるのかと驚きました。私が参加した中では一番多くて220kgの時があり、運ぶのも大変でしたが、それ以上に充実感でいっぱいでした。そのお米を生活に困っている学生に食料支援で送るときも、寄付してくれた方の顔が思い浮かびました。またフードバンクの現状をお手伝いと合わせて知り、新型コロナが落ち着いてきても物価高で生活支援が必要な方が多くおられ、その方々を支援している人がいることを知りました。引き続き支援活動は全力で取り組みたいです。

大学1年生メンバー

## 4、学生ボランティアセンター

- ・学生の孤立を防止するためにボランティア活動をあっせん・調整し、仲間づくりを進めるもの。
- ・学生ボランティア募集ポスターを作成。地域高校、大学に、令和4年5月から月1回継続周知。
- ・大学生による仲間づくりのための、ウクライナ人道支援募金活動10回を実施。  
4月12日・13日・14日・15日、5月9日・10日・11日・12日・13日

- ・4月に逗子市の空き家の一室を契約。そこを拠点の一つとして、大学生ボランティア会議、高校生中学生ボランティア会議、活動の中でアイデアが出てきた子どもマンガ図書館づくり会議と準備を実施。



空き家拠点正面玄関

- ・大学生ボランティア会議 24回開催

食料支援活動、食料配布活動、募金活動を調整

4月11日・18日、5月9日・16日、6月13日・20日、7月11日・18日、8月8日・15日、9月12日・19日、10月10日・17日、11月14日・21日、12月12日・19日、1月16日・23日、2月13日・20日、3月13日・20日

- ・高校生中学生ボランティア会議 24回開催

募金活動、学生会議を調整

4月1日・15日、5月6日・20日、6月3日・17日、7月1日・15日、8月5日・19日、9月2日・16日、10月7日・21日、11月4日・18日、12月2日・16日、1月6日、20日、2月3日・17日、3月3日・17日

- ・子どもマンガ図書館づくり会議

6月30日、7月14日・21日・28日、8月5日・27日、9月8日・22日・29日、10月6日・13日・12月17日・24日

- ・子どもマンガ図書館

マンガ本寄付募集会 8月27日 およそ30箱のマンガ本が集まる。

10月から12月でミーティングとあわせて準備し、1月から3月まで、毎週土曜日11時から16時でプレオープンを行った。あわせて、逗子市立体育館及び逗子市の体験学習施設への子どもマンガ図書館分室づくりも検討・調整した。



子どもマンガ図書館

場所：空き家拠点

実施：12回、1月7日・14日・21日・28日、2月4日・11日・18日・25日、3月4日・11日・18日・25日

延べ利用人数：78名（1回平均6.5人）

広報：逗子市内小学校・中学校校内ポスター掲示、逗子市広報板掲示

スタッフ：中学生1名、高校生3名、大学生2名



・学生会議

学生の孤立防止のための会議を実施。音楽を通してつながりながら、高校生間のネットワークを構築した。

日時：12月27日 16:00~20:00

場所：逗子文化プラザさざなみホール

参加学校：逗葉高等学校、金沢総合高等学校、  
上矢部高等学校、公文国際高等学校、  
横須賀学院高等学校、横須賀総合高等学校

参加者数：48名



学生会議集合写真

・ダンスパーティ企画

空き家拠点を共に使用しているフリースクール casica の子ども達とコラボした子ども DJ によるダンスパーティとお米一合運動を企画。

日時：2月25日 18:00~20:00

場所：逗子文化プラザさざなみホール

参加者数：60名



子ども主催のダンスパーティ

・活動発表

かながわ学生ボランティア連合食料支援活動の発表を、逗子ロータリークラブ主催の「湘南青少年環境会議 in 逗子」で発表した。

主催：逗子ロータリークラブ 協力：環境省、unisef

日時：3月25日 14:00~16:30

場所：逗子開成中学校高等学校徳間記念ホール

参加者数：約100名



発表の様子

学生ボランティアセンター活動を通して（考察）

若者の孤立をどうしたら地域でサポートができるのか、すごく考えた1年でした。最初は話し合いから行い、大学生・高校生の活動者を集めるところからスタートし、話し合いを月4回重ねていきました。課題としては継続して参加してくれる学生がどんどん少なくなっていくことで、意識の持続方法について検討をしなければならぬと感じました。

また検討の中でできてきた「子どもマンガ図書館」については、企画から準備まで、本当に大変でしたが、1月から3月までプレオープンが実施でき、多くの方のご利用が励みになりました。

若者の居場所を作っていくことは難しいですが、学生として、ボランティアの一員として、できることを引き続き実施していきたいと思います。

学生ボランティアセンター担当大学1年生メンバー

## 新たなニーズ・課題

1年間の支援活動を通じて、「生活に困っている」「アルバイトに入ることができない」という状態はだいぶ緩和されてきており、新型コロナウイルス感染拡大の影響は少なくなっていると想定されます。

一方で、物価高による生活への影響は色濃く出ており、少なからず生活に困っている学生は存在するのが現状です。

活動を通して、生活に困っている学生への生活支援という面での新たなニーズは現状出てきておりませんが、課題については以下の通り整理をしています。

### 課題1 孤立する若者の支援方法

活動を通して、アンケートから「孤立していると感じる」学生がおり、学生ボランティアセンターの活動を通じて参加の呼びかけを随時行いましたが、学生同士の活動に参画をされる学生は少ない現状がありました。参画を促すために、オンラインでの会合やミーティング見学を促すなど、工夫を凝らしてみたものの、「孤立していると感じる」と回答した学生の参加は少ないものでした。どのような場があればつながれるのか、更なる検証と実践が必要と感じています。

### 課題2 中間支援組織としてのフードバンクへの支援体制

食料送付活動において、フードバンクかながわ、そして神奈川フードバンクプラスより、多大なご支援をいただきました。一方、フードバンクかながわでは、主食のお米が不足し、支援のために購入をしている現状があり、その支援のために「お米一合運動」を実施し、フードバンクの支援も行ってきました。食品ロスの量が日本全体では年間522トン、一人換算で年間約41kgもの食品ロスが生じている現状の中、必要な方に届けるためのフードバンクの昨日は社会的に見ても非常に重要と感じます。

一方、現状では公的な支援が非常に乏しく、社会のニーズと現状が乖離していることが、活動を通してわかりました。

## 1 年間を通して

2023年5月より、新型コロナウイルスが5類となり、社会がコロナ前に戻ります。今年度の活動を通して、社会が少しずつもとの様相を取り戻しつつある中で、学生の環境を逐次把握しながら、適切な支援を行っていくことは、考えていたより難しい作業でした。

学生を取り巻く状況として、まず行政の施策としては、2年前に学生への給付金などがありました。継続的な支援とはなっていません。

次に、他団体の取組みとしては、フードバンクや各地域の社会福祉協議会などが食料支援活動をしています。学生とのつながりが作りづらく、橋渡しをする役割が必要です。

また学校（大学・専門学校）については、個人情報保護の観点から、困窮学生と地域社会資源をつなぐことがなかなかできず、また学校自体も、困窮学生の把握と支援がしづらい環境となっていました。

このような状況から、サポートが必要な困窮学生とつながり、継続的な支援活動を行ってきましたが、この事業では多くの大学生・高校生の事業への参画があり、ハードルを下げた学生による学生のための支援活動が、困っている学生にとってノックしやすい環境であることがわかりました。

学生への食料サポート活動は、この事業終了の3月をもって一旦終了しますが、フードバンクを支援する活動、学生ボランティアセンターの活動、そして総合的な若者サポートステーションの活動は、今後も継続していきます。

この活動をご支援していただきました、フードバンクかながわ、神奈川フードバンクプラス、関東学院大学、神奈川県立保健福祉大学、横浜市立大学の皆様に大きな感謝を申し上げます。

活動を継続しながら、若者が孤立しないための地域の仕組みづくりを、引き続き模索していきます。

---

## 若者サポートステーション事業 実施報告書

発行日：令和 5 年 3 月 31 日

発行責任者：NPO 法人すこやかいきいき協議会

令和 3 年度（補正予算）独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業